令和4年度　山形総合支所長マニフェスト（総括）

山形総合支所長	上有谷　満

【基本方針】

地域づくり活動の推進については、山形町の住民が自らの地域のあるべき姿について考え、意欲的、主体的に取り組む地域づくり活動を支援します。

短角牛の振興については、山形村短角牛のブランド力向上のため、生産者を中心に関係機関一体となり、安心安全な国産エサ100％で飼育された国内最高峰の赤身肉であることを広く情報発信し、増頭対策及び販売拡大に取り組みます。また、市指定無形民俗文化財である「東北唯一の闘牛（牛の角突き）」の発展及び継承に努め、後世に伝承していきます。

観光の振興については、日本一の白樺美林を有する平庭高原の環境整備を行うとともに、白樺の老木・倒木による美林の衰退・消滅の危機を受け、白樺林の維持・再生に積極的に取り組みます。また、平庭高原、内間木洞などの観光資源を活用したイベントを開催し、誘客と地域の活性化に取り組みます。

郷土料理まめぶについては、地域とともに各種事業を実施し、国の無形民俗文化財への登録に向けた取組を進めます。

【重点目標】

1　山形町の未来づくり計画「やまがたビジョン」の策定・行動計画に向けた委員会の開催

達成状況：**達成**

○内容

■ 昨年度立ち上げた策定委員会を開催し、20年後の山形町の望ましい将来像を目指すため、ビジョンの策定・行動計画を起こすための委員会を開催します。

- 委員会開催（R4目標5回）【コロナ影響】

●取組結果

- 昨年度より取り組んでいる山形町の未来づくり計画「やまがたビジョン」の策定については、特定非営利法人いわて地域づくり支援センターの代表理事をアドバイザーに迎え、策定委員21名により、3回の委員会を経て9月に策定しました。
- この「やまがたビジョン」をもとに現在、「SNSの活用」、「久慈渓流の景観活用」、「支え合い（見守り）体制づくり」、「子育てしやすい環境づくり」の4グループに委員が分かれワークショップを11月、2月に開催し、20年後の山形町の目指すべき将来像を実現するためのアクション（行動）への移行を進めています。
- 委員会開催を「やまがたビジョン」の策定や行動計画を起こすための委員会の開催など計5回開催しました。

2　市民団体が行う地域づくり活動に対する情報及び資金の支援

達成状況：**達成**

○内容

■ 地元愛の醸成及び山形地域における地域振興を図るため、主体的に取り組む地域や団体に対して、助成事業の紹介と活用を促し、地域づくり活動を支援します。

- 地域コミュニティ振興事業（R4目標10件、補助額10,000千円）【コロナ影響】
- 地域づくりに係る支援事業の紹介及び相談・支援（R4目標3件）【コロナ影響】

●取組結果

- 地域づくり活動を支援し、地域振興を図る地域コミュニティ振興事業について11件の実績となりました。また、補助額については8,614千円で執行率86％の状況です。
- 地域づくりに係る支援事業の紹介・相談等については、自主防災組織の2地区での認定、その他の地区についても結成に向け相談・支援を継続して行いました。

3　山形総合支所の移転に向けた取組の推進

達成状況：**未達成**

○内容

■ 山形総合支所の移転について、手法などの検討を行うとともに、移転への理解を深めてもらうため、行政連絡区長等との検討会や住民説明会を開催します。

- 山形総合支所のあり方検討会の開催（R4目標2回）【コロナ影響】
- 山形総合支所移転対策会議の開催（R4目標2回）【コロナ影響】
- 住民説明会の開催（R4目標8学区各1回以上）【コロナ影響】
- 来庁者の実態調査の実施（R4.5～R5.3 各窓口において実施）

●取組結果

- 令和4年7月21日に山形総合支所移転対策会議作業部会を開催し、移転に伴う各課の課題について洗い出しを行いました。
- 当部会及び総合支所内での再検討の結果、これまでの移転後の事務配置（案）では、練習室や通路の一部が潰されてなくなることにより、ホール事業に支障がでることなどやおらほーるの一部が土砂災害区域や土砂災害特別区域に指定されているなどの問題が提起されました。
- また、山形小学校、かわい児童館の改築、山形図書館の図書室化などの問題があることから、支所の移転先候補地としているおらほーると併せ、他の公共施設の利活用についても、現在内部で検討を重ねている段階であることに加え、まずは住民の一部代表者との懇談・協議を丁寧に重ねるべきとの意見が有識者等から寄せられています。
- また、今年度地域住民を中心に策定した「やまがたビジョン」について、今後事業推進体制の構築や事業実施など事業推進にあたり、移転先は山形町の地域づくりの拠点となる可能性があり、より丁寧に慎重にすべきではないかとの意見等もあることからより有効かつ住民が納得する方策を考えながら、慎重に進める必要があります。
- 本年5月から実施している来庁者の実態調査では、2月末時点で1カ月当たり493人の来庁者があり、うち徒歩来庁者は約10人となっています。

※【コロナ影響】…新型コロナウイルス感染症の影響を受けることが予想される目標

4　山形村短角牛振興と闘牛文化の発展継承及びまめぶ食文化遺産登録	達成状況	一部達成

○内容

■ 安全安心な山形村短角牛の生産振興と積極的なPRを行い、販路開拓と消費拡大に努めるとともに、「生産者と消費者の顔の見える関係」の構築維持のため消費者等との交流事業を行います。また、闘牛大会の開催による集客と更なる知名度の向上、闘牛文化の継承活動に取り組みます。さらに、郷土料理まめぶの国の無形民俗文化財への登録に向け、各種事業を実施します。

- べごツアー参加者（R4目標45人）【コロナ影響】
- 短角牛消費拡大イベント開催によるPR（R4目標盛岡200人、八戸100人、首都圏50人）【コロナ影響】
- 闘牛大会の開催（R4目標 4場所開催、年間来場者2,400人）【コロナ影響】
- 山形町郷土食保存継承の会とともに各種事業を展開（R4目標 未来継承講座80人、郷土食フェスタ200人）【コロナ影響】
- 短角牛生産基盤の強化及びエリート牧場の草地更新

●取組結果

- べごツアーは開催に向け準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大に伴い、中止となりました。
- 短角牛消費拡大イベント開催によるPRは、盛岡市で3回の出展を通じ約400人の来場者にPRを行いました。首都圏ではアンテナショップ等で短角牛製品のPRを行っており、また、東京都のホテルニューオータニとの連携により「いわて牛・いわて短角牛肉フェア」を開催し、2月16日から3月15日の1カ月間、当地の短角牛を通常メニューにて提供していただきました。八戸市では「いわて山形村短角牛でナイトin八戸」を開催し、イベントの周知に努め定員を超える120名の皆様にご来場いただきました。
- 闘牛大会は全4場所を開催し、年間延べ来場者は4,300人と多くの皆様からご来場いただき、闘牛文化の発信を行いました。
- 郷土料理「まめぶ」については、山形町郷土食保存継承の会と連携し、平山小学校の児童12人を対象に未来継承講座を実施しました。また、首都圏・外国人向けにまめぶプロモーションPRを2回行い、60人の参加をいただきました。このほか、兵庫県明石市で開催された100年フード認定団体によるイベント（来場者約12,000人）に出展しPRを行いました。「まめぶ展・郷土食フェスタ」は昨年度に引き続き食文化ミュージアムとなっているおらほーるで開催し、山形町7地区のまめぶを約200人の来場者が味わい、まめぶの国の無形民俗文化財への登録に向け機運を高めました。
- 短角牛生産基盤の強化については、新岩手農業協同組合が実施する種雄牛管理センターの改修に対し助成を行いました。また、エリート牧場の草地更新については、他工区の事業費高騰に伴い1牧区の測量のみとなりましたが、次年度において調整し、遅延なく工事着手する予定となっています。

5　平庭高原の環境整備と日本一の白樺美林の再生	達成状況	達成

○内容

■ 平庭高原環境整備ボランティア「くじ☆ラボ」の活動支援やイベントを開催し、平庭高原の白樺美林整備促進による適正な環境保全と観光客の誘客に繋がる活動に取り組みます。また、中長期的な白樺林の再生の取り組みとして、令和3年度から、現況調査及び技術指針の策定に着手しており、令和5年度に完成させます。

- くじ☆ラボ延べ参加者（R4目標80人）【コロナ影響】
- 白樺林の下草刈り（R4目標2回）【コロナ影響】
- 白樺の植樹（R4目標300本）【コロナ影響】
- レンゲツツジの植樹（R4目標112本）【コロナ影響】
- 白樺林再生に係る現況調査及び技術指針の策定
- 民間企業との連携を図り、日本一の白樺美林の環境保全への取組

●取組結果

- 「くじ☆ラボ」は、市民や市内外の民間企業からご支援をいただきながら全3回開催し、参加者数は年間延べ285人となりました。作業内容は白樺林の下草刈りを7月、11月の2回実施し、8月には白樺300本、レンゲツツジ112本の植樹を行い、日本一の白樺美林の環境保全に取り組みました。
- 白樺再生については、令和5年度の技術指針の策定に向け、白樺再生のための実証実験を行うための試験地の調査・設置を行うとともに、平庭高原エリアの腐朽した危険木の除去を行いました。事業成果につきましては、3月10日に事業報告会を開催しました。
- 東京都内の企業や、県内、市内企業等の支援をいただき、環境保全活動を共に取り組みました。

※【コロナ影響】…新型コロナウイルス感染症の影響を受けることが予想される目標